

## 第5・6学年 学級活動(2) 指導案

令和元年10月30日(水) 第6校時

土佐清水市立幡陽小学校

児童数 5年9名 6年5名

場所 5・6年教室

指導者 北代 あかね

1. 題材 「ミニ防災会議—命を守る!—」  
学級活動(2)ウ「心身ともに健康で安全な生活態度の形成」

2. 題材について

- (1) 児童の実態

本学級の児童は、これまでに年間指導計画に基づき、地震や津波のメカニズムや想定される避難行動の在り方等、命の守り方(身の安全確保)について学習し知識を広げてきた。また、学年の発達段階に応じて、昨年度までに、家での備えや避難生活について考える学習にも取り組んでいる。

クラスの児童の約80%は実際に津波が起これば自宅が浸水被害に遭う恐れがあり、もしものことが起これば、避難所生活を余儀なくされることが予測されている。しかし、第1回目の防災意識調査において、実際には各家庭での防災意識に温度差があり、家族を巻き込んだ備え等の行動化には至っていない家庭がほとんどであるという結果であった。

そこで、備えに対する危機感を持ち、防災力(瞬時に判断し、より安全に行動がとれる等)を高めていくためにも、体験を重視した学習を教科等横断的に継続することが必要であると考え、①マイ防災マップづくり—ハザードマップから考える—②防災散歩③非常持ち出し袋、これでいい?等の学習に取り組んできた。その際には「やってみる→気づく→考える」をサイクル化し、自分に必要な事を「必携!マイ防災BOOK」にファイリングしながら防災力の向上を目指してきた。

- (2) 題材設定の理由

本校は、市街地郊外の高台にあり、校舎は避難所になっている。しかし、児童の多くは、津波浸水地域に自宅があり、今後30年以内に70~80%の確率で起こるとされる南海トラフ地震の予測によると、甚大な被害が予測されている。最大クラスの地震発生の場合、校区では、震度6強~7、30cmの津波到達時間10分、津波高は15mと想定されている。

高学年の重点目標は昨年度までと同様、「地域の災害の特性や防災体制について理解できるようになる。」「災害により引き起こされる危険を予測し、災害時には、自ら危険を回避する行動ができるようになる。」「災害時には、家族や友達、周囲の人々の安全にも配慮し、他の人の役に立つ行動ができるようになる。」ことをあげている。

これまでの学習の積み上げで、南海トラフ地震の特性や災害時における危険回避行動についてはよく理解はできているが、現実自然災害が起きた時、果たして命を守る備えができているかと問うと、そのための行動化には至っていない。

校区内である大岐地区・以布利地区に阪神淡路大震災に被災した方々が数名住まわれている。児童達はその方々の中から大岐区長さんの体験談の聞き取りを行い、その地震では、建物倒壊や室内の家具等の転倒が数千人の命を奪う結果となった事実を聞いた。

地震だけでなく気象変化に伴い、先日の台風19号のような、これまでに起こったこ

とのない自然災害が身近に起こる可能性がある。今回は、突然の自然災害に見舞われたとき、果たして自分の命が守れるのか、命を守るためにはどんな備えが必要なのかを再度考えさせ、行動化できるようにさせたい。また、今回のミニ会議が家族会議や地域ぐるみのもものへと発展していくように繋げていきたい。

### 3. 学級活動 (2) 「日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」の評価規準 (第5学年及び第6学年)

観点	集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
評価規準	自己の生活の充実と向上にかかわる問題に関心を持ち、自主的に日常の生活や学習に取り組もうとしている。	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために、日常の生活や学習の課題について話し合い、自分に合ったよりよい解決方法などについて考え、判断し、実践している。	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくることの大切さ、そのための健全な生活や自主的な学習の仕方などについて理解している。

### 4. 事前の指導

児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
・阪神淡路大震災についての聞き取りをし、思ったことや考えたことをワークシートに記入したり、礼状を書いたりしながら、自分自身の災害時の備えについての課題を見つける。	・阪神淡路大震災が起こったときになぜ、命が助かったのかを、聞き取りの後の児童の感想を話し合う中でしっかりと押さえておく。 ・普段の生活の中で、いつ、どこにいても、自分の身の守り方を頭に入れておく。(ワークシート南海トラフ地震から「自分の命を守る。」の活用)	【関心・意欲・態度】 ・災害から、命を守るために大切なこととは何なのかを関心を持って聞き取ることができる。(ワークシート・感想・礼状)

### 5. 本時のねらい

災害発生時、自分の身を守るために、今、どんな行動を起こすべきか考えることができる。

### 6. 本時の展開

	児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿と 評価方法
導入 (5)	1. 阪神淡路大震災の教訓から自分たちに必要な行動を振り返る。 ・家具固定 ・頭を守る行動 2. DVDを見る。(家具固定時とそうでない場合)	・建物倒壊や家具等が命を奪うものになることを振り返らせる。  ・家具固定時とそうでない場合の差から、我がごととしてどうなのか危機感を持たせる。	

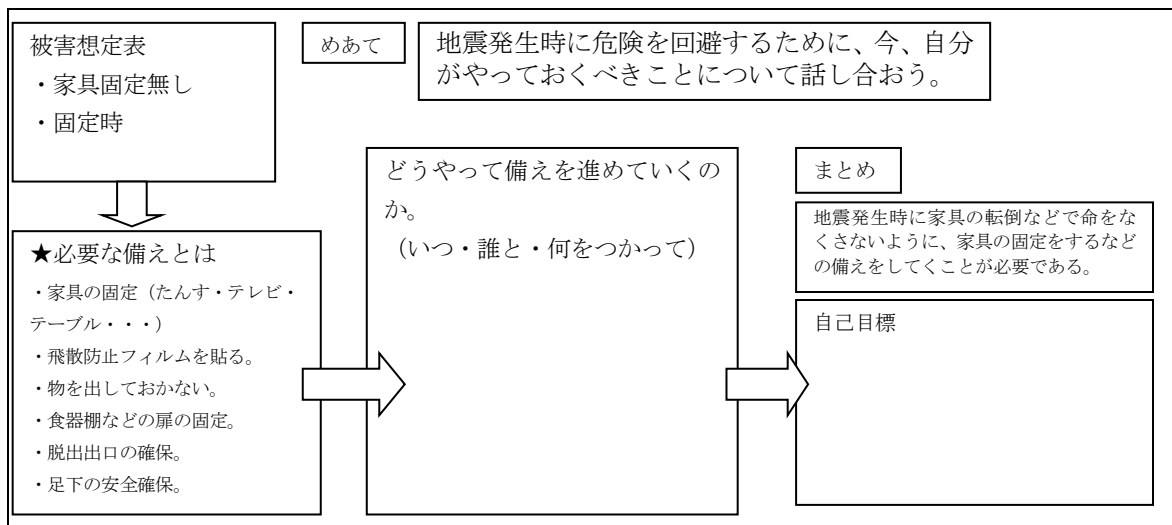
展 開 (30)	3. 本時のめあてを考える。	・危険回避の備えをしていないと身を守れないことを確認し、めあてに繋げる。	
	地震発生時に危険を回避するために、今、自分がやっておくべきことについて話し合おう。		
	4. 会議を始める。 S:今回は、「今、しておくべき備えとは」を議題にミニ防災会議を始めます。 S:「自分の家に必要な備え」について、まず自分で考え、その後グループで話し合い、まとめてください。(10分) ・家具の固定(たんす・テレビ・テーブル・・・) ・飛散防止フィルムを貼る。 ・物を出しておかない。 ・食器棚などの扉の固定。 ・脱出出口の確保。 ・足下の安全確保。  S:グループで出たことをそれぞれ発表してください。  S:意見がたくさん出ましたが、家具の固定など、自分の家で、家族とどんな物を準備し、このことを進めていくといいですか。 ・突っ張り棒をホームセンターで手に入れる。 ・100均で扉を固定する防災グッズを手に入れる。 ・テーブルの足に揺れを押さえるシリコンを貼っておく。  S:家で危険を回避する必要な備えについてまとめます。	・司会者、書記は代表者 ・司会者が会議を進められるように、また、参加者が会議を見通せるように進行表を工夫しておく。 ・まず、個人思考の時間を確保し、短冊に記入する。 ・掲示物(リビング、寝室の絵)を貼り、考える手立てとする。(黒板用、個人用) *自分の家の様子もイメージして考えさせる。 ・グループ協議では自分の考え(短冊)をミニホワイトボードに貼りながら発表し合わせる。 ・他のグループと同じ物は省略して話させる。  ・具体的に家で、いつ、誰がどうやって行動化していけば良いかを投げかけ、司会者が会を進めやすいように助言する。 ・便利グッズの紹介をする ・意見が広がらない場合はヒントを出す。 (物の置き方、台所、窓ガラス対策、家具配置の工夫、逃げ場の確保)	
	地震発生時に家具の転倒などで命をなくさないように、家具の固定をするなどの備えをしていくことが必要である。		
S:今日のミニ防災会議を振り返って気づいたことや考えたことや意見を言ってください。 ・命を守るためには、家の中の備えが大切なのだと改めて思いました。 ・津波以前にまず揺れから身をまもるためには、家の中を安全にしておくことが大事だと考えました。 ・備蓄品とかの備えはしていたけれど、家具固定があまりできてないので家で話してこのことを進めたいです。	・「自分の家はどうだろう」という視点も持たせる。 ・自分たちの備え次第で、危険を減らすことができるのだと気づかせる。		

終 末 (10)	5. 自己目標を決定する。 まず命を守るのために、( ) をする。	・危険回避のために、今の自分に必要なことについて考えさせる。	・危険回避のための備えについてどんな行動をとる必要があるか考えることができる。【思考・判断・実践】 (自己目標記入の短冊)
	・家族で家具固定！ ・家の中の危険を見直す！		

## 7. 事後の指導

児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法
<ul style="list-style-type: none"> <li>自己目標を家族にも伝え実践するためにも、家族防災会議を持つ。</li> <li>「やってみる→気づく→考える」で「必携！マイ防災BOOKの加筆をする」。</li> <li>実践したことを報告し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家族ぐるみで、行動化していこうとする気持ちを高めていく。</li> <li>「必携！マイ防災BOOK」を、いざと言うときに活用できる内容に工夫していく。</li> <li>自己目標が実践できたか振り返る場を設定し、評価する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>もしもの場合の家庭での備えについての自己目標の内容を、家族と協力して行動化できている。</li> </ul> <p>【思考・判断・実践】 (マイ防災BOOK・発言)</p>

## 7. 板書計画



## 8. 準備物

短冊（個人思考の分・自己目標記入用）、ホワイトボード（グループ協議用）、掲示物